

子ども支援レポート③

ヤオコーでは、2020 年 9 月から、埼玉県、埼玉県社会福祉協議会、アサヒロジスティクス(株)様のご協力のもと、埼玉県下の生活にお困りの子育て世帯を対象にしたお米の支援を開始し、2022 年 8 月で丸二年が経ちました。そして、この子ども支援を一時的なものではなく継続的な取り組みとするため、2021 年 3 月に「一般財団法人 ヤオコー子ども支援財団」を設立し、2021 年 9 月より財団でこの活動を引継ぎました。これまで同様、毎月 1 回埼玉県福祉部および埼玉県社会福祉協議会のご協力のもと、埼玉県内にあるフードパントリーと子ども食堂へ、お米をお届けしております。

お米の支援		配布エリア	個数	キログラム数	こども食堂	フード パントリー	配布団体の 合計
8	2022 年 4 月	越谷市	119	582	18	9	27
9	2022 年 5 月	三芳町	150	731	20	9	29
10	2022 年 6 月	加須市	116	534	18	11	29
11	2022 年 7 月	狭山市	111	539	13	0	13
12	2022 年 8 月	熊谷市	136	665	12	5	17
13	2022 年 9 月	鶴ヶ島市	115	570	11	13	24



2022 年 4 月 越谷エリア 119 袋 (582 キロ)

今回で 3 回目となる越谷市場での荷下ろしでした。屋根のある市場で、大型の業務用冷蔵庫も完備されており、男性ボランティアの方も多くいらっしゃいます。こちらの市場は、以前テレビの企画でシャッター（閉店してしまったお店）にスプレーアートが施されている場所です。また、フードパントリーの区画の頭上には、カラフルなビニール傘がディスプレイされており、見上げるとアンブレラスカイのようでした。



2022 年 5 月 三芳エリア 150 袋 (731 ㌔)

今回 3 回目となる三芳町周辺の荷下ろし場所は、上板塑性株式会社さまの駐車場です。2019 年夏から上板塑性株式会社の社長さまの一声でフードパントリーの活動を始められ、他企業さまの寄付の品物もここに集められています。お届けしたお米も今日取りに来られなかった団体さま分は、敷地内にある部屋のスペースで保管してくださるようです。近隣企業さまのご協力はありがたいですね。



2022 年 6 月 加須エリア 116 袋 (534 ㊦)

加須市は、ボランティア団体のリーダーとして活動されている方にシニアの方が多く、毎回沢山のボランティア団体スタッフの方が荷下ろしに駆け付けてくださいます。今回は 3 回目となり、荷下ろしもスムーズにご対応いただきました。



2022年7月 狭山エリア 111袋（539キロ）

今回はお米の寄付に加え、埼玉県からのご依頼で、長引くコロナ禍や物価高騰の影響により、給食のない夏休み期間に、十分な食事がとれない子どもが増加することを踏まえ、子どもの居場所を通じて、子どもの食の支援をする「カレー大作戦！」の食品も一緒にお届けしました。子ども一人当たり、レトルトカレーとパックご飯12食と、学用品2つ程度をお渡しするもので、ヤオコーではグロッサリー部の協力のもと、レトルトカレー＆パックごはんをそれぞれ30万食、ノート5万冊を準備いたしました。



2022 年 8 月 熊谷エリア 136 袋 (665 ｷﾓ)

ここ熊谷エリアは、子ども食堂を営む「熊谷なないろ子ども食堂」さんの駐車場が荷下ろし場所になっています。どなたでも来てくださいというスタンスで、平日の3日間 17時から 19時まで、中学生以下無料、高校生以上 200 円でお弁当の配布をされており、ごはん屋なないろ食堂さんにて、毎回 180 食ほど作っていらっしやいます。



2022年9月 鶴ヶ島エリア 115袋 (570㍑)

この日は快晴の日差しの強い日となり、お米を載せたトラックが到着するまで、ボランティア団体のみなさんも日陰で待機されていました。このエリアでは参加団体も増え、今回はまだ登録ができていない団体さんもあったため、埼玉県の子少政策課の方が対応されていました。